



釜石支部の建設業ふれあい事業

釜石支部

県建設業協会釜石支部青年部（岩間公人会長）による09年度建設業ふれあい事業が27

日、釜石市立鶴住居小（坂下俊彦校長）で開かれた。事業では同校1、2年生の生徒がバックホウと高所作業車の試乗を元気づけ

ばい体験。事業の後には、校庭の敷きならしなど奉仕活動も行われた。

当日は、同校の「働く車」体験学習授業の一環で実施。同校生徒1、2学年約100人と、青年部の会員ら28人が参加した。

はじめに岩間会長、坂下校長がそれぞれあいさつ。岩間会長は、「楽しみながら、建設機械の使い方などを学んでもらいたい」と語った。

事業では高所作業車の試乗で、ボックスから下の友達に手を振る生徒や、歓声を上げる姿が見られた。試乗した1年生の女の子は「ちよつと怖かったけど、面白かった」と、初めて乗る建設機械に興奮気味。2年生の男の子は「ディズニールと、周囲の友達から拍手が上がっていた。試乗を体験した2年生の女の子は「すごく面白い」と、隣の友達と手を取り合いながら、笑顔でしゃべっていた。

建設業

ふれあい

事業

はしめに岩間会長、坂下校長がそれぞれあいさつ。岩間会長は、「楽しみながら、建設

機械の使い方などを学んでもらいたい」と語った。

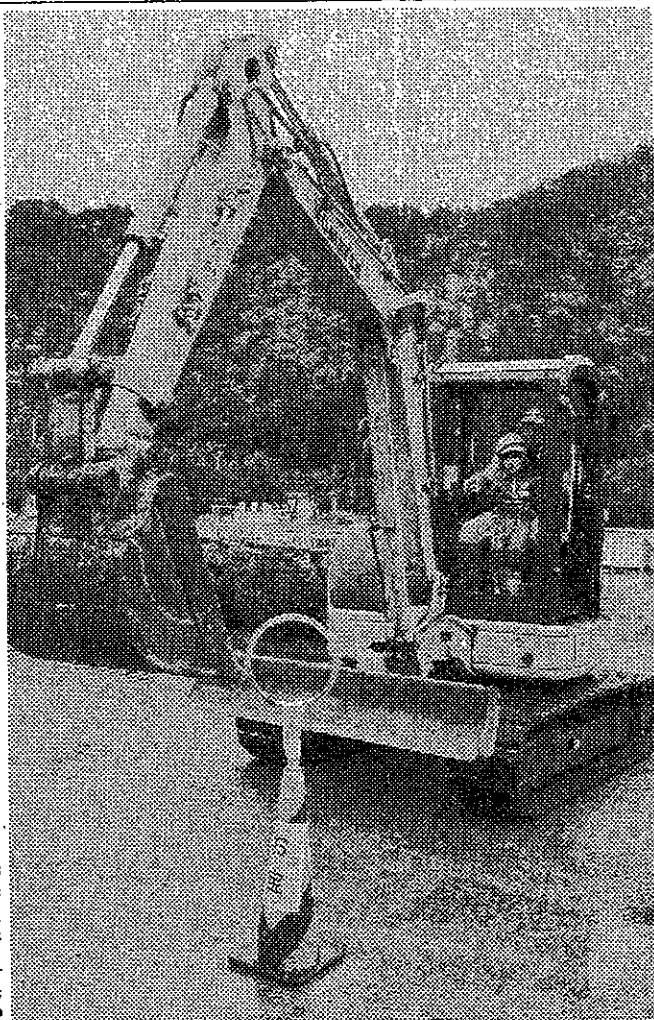
事業では高所作業車の試乗で、ボックスから下の友達に手を振る生徒や、歓声を上げる姿が見られた。試乗した1年生の女の子は「ちよつと怖かったけど、面白かった」と、初めて乗る建設機械に興奮気味。2年生の男の子は「ディズニールと、周囲の友達から拍手が上がっていた。試乗を体験した2年生の女の子は「すごく面白い」と、隣の友達と手を取り合いながら、笑顔でしゃべっていた。

当日は午後からボラティア活動として、学校周辺の樹木の枝払いや、校庭の敷きならしも行われた。

重機に試乗、操作

県建設業協会
釜石支部青年部

鵜住居小児童楽しむ



県建設業協会釜石支部
青年部（岩間公人会長、
会員30社）は27日、毎年
恒例のふれあい事業を釜
石市立鵜住居小学校（坂
下俊彦校長、児童320

人）で行った。会員企業
22社と電気工事業1社の
計23社から岩間会長ら約
20人が参加。同校1、2
年生対象の重機作業車試
乗体験のほか、同校内の

（県建設業協会釜石支部
青年部会員と一緒にバッ
クホーを操作する鵜住居
小児童）

立ち木枝払い奉仕活動を

実施した。

同事業は、子供らに建設機械と触れ合うことで建設業への理解を深めてもらおうと、1990年から毎年釜石地区の小中学校で実施している。

試乗体験では、同校の1年生41人と2年生52人が授業の一環で参加。ヘルメットを着用した児童らは、会員と一緒にバックホーや高所作業車などの重機作業車に乗り、砂をすくう作業や運転に臨んだ。高所作業車では約15メートルの高さから体育館の屋上やグラウンドを見渡し、児童らは大喜びだった。

1年生の二本松蓮君は「バックホーを近くで見えてびっくりした。動かしてみただけ楽しかった」と話した。